

大会プログラム

(講演論文集掲載版)

2021 年度

第 34 回日本リスク学会年次大会

Risicare～勇気をもって試みる～混迷の時代に生きるための基盤

2021 年 11 月 20 日(土)～21 日(日)

オンライン開催



発表方法

● 企画セッション

企画セッションではオーガナイザーが座長を務めます。企画セッションでの発表時間の長さについては、オーガナイザーが決定します。

発表者は、自身の PC より発表用資料を画面共有して下さい。

● 研究報告セッション

発表時間は **20 分【発表 12 分+質疑応答 8 分】** です。

発表者は、自身の PC より発表用資料を画面共有して下さい。

● ハイブリッドセッション

ショートプレゼンテーションの後でポスター発表を行うものです。最初に、各発表について 2 分のプレゼンテーションを行います。その後、各発表者専用のブレイクアウトルームにて発表者と参加者との間で質疑応答や討論を行います。

ショートスピーチ用のスライドは、Zoom 会場運営担当が画面共有します。

大会プログラム(総括表)

大会 1 日目 11 月 20 日(土)

時間	A会場	B会場	C会場
9:00	開会式		
9:10-10:40	企画セッションA1 【野波寛】 地層処分地の選定に向けた 段階的・協調的アプローチ： 国民的議論の進め方をめぐる 実証的研究 (A1-1 ~ A1-4)	企画セッションB1 【関澤純】 リスク対応の基本的見直しの 必要と基礎的検討について (B1-1 ~ B1-4)	研究報告セッションC1 【梶原秀夫】 自然災害・Natech C1-1 C1-2 C1-3 C1-4 討論
10:50-12:20	企画セッションA2 【桑垣玲子、竹田宜人】 地層処分に係るリスクコミュニ ケーションの諸問題ーリスク コミュニケーション事例タスク グループ企画セッションー (A2-1 ~ A2-3)	企画セッションB2 【前田恭伸】 市民の社会参加への コロナ禍の影響 (B2-1 ~ B2-4)	研究報告セッションC2 【永井孝志】 リスク管理 C2-1 C2-2 C2-3 C2-4 C2-5
セッションC2の み12:30まで			
12:40-13:10	ランチミーティング		
13:20-14:50	ハイブリッドセッションP 【村上道夫】 ショートスピーチ ポスター発表 (P-1 ~ P-12)		
15:00-17:15	シンポジウム会場 公開シンポジウム 災害・事故に起因する化学物質 放出に伴う環境リスクの評価・ 管理手法の体系的構築に関する 研究 ~新興リスクへの化学物質 リスク評価・管理の進化的対応 に向けて~		
17:15-18:00	オンライン意見交換会 (シンポジウム講演者)		

大会 2 日目 11 月 21 日(日)

時間	A会場	B会場	C会場
9:10-10:40	<p>企画セッションA3 【村上道夫、藤井健吉】</p> <p>次期リスク学事典について 考える (A3-1 ~ A3-4)</p>	<p>企画セッションB3 【前田祐治、上野雄史】</p> <p>経営・経済リスクの レジリエンス (B3-1 ~ B3-4)</p>	<p>研究報告セッションC3 【竹田宜人】</p> <p>リスクコミュニケーション C3-1 C3-2 C3-3 C3-4 討論</p>
10:50-12:20	<p>企画セッションA4 【保高徹生、村上道夫】</p> <p>マَسギャザリングイベント におけるリスク評価・管理： 検査とワクチンを事例として (A4-1 ~ A4-4)</p>	<p>企画セッションB4 【山崎毅】</p> <p>食品中の杞憂のリスクを 議論する (B4-1 ~ B4-4)</p>	<p>研究報告セッションC4 【小野恭子】</p> <p>リスク情報 C4-1 C4-2 C4-3 C4-4 討論</p>
12:20-12:50	ランチミーティング	一般公開ウェビナー	
12:50-14:20	<p>企画セッションA5 【土田昭司】</p> <p>Covid-19ならびに そのワクチンへの 社会的対応 (A5-1 ~ A5-4)</p>	<p>企画セッションB5 【長坂俊成】</p> <p>モバイル建築の社会的備蓄 (B5-1 ~ B5-4)</p>	<p>研究報告セッションC5 【井上知也、小島直也】</p> <p>リスク認知・経験 C5-1 C5-2 C5-3 C5-4 討論</p>
14:30-16:00	<p>研究報告セッションA6 【米田稔、近本一彦】</p> <p>リスク解析 A6-1 A6-2 A6-3 A6-4 討論</p>		<p>研究報告セッションC6 【岸本充生、藤井健吉】</p> <p>COVID-19 C6-1 C6-2 C6-3 C6-4 討論</p>
16:10-17:30	表彰式・受賞講演		
	閉会式		

大会プログラム(一覧)

11月20日(土) 9:10~10:40

A会場

- 企画セッション A1 : 地層処分地の選定に向けた段階的・協調的アプローチ: 国民的議論の進め方をめぐる実証的研究
オーガナイザー(座長) : 野波寛(関西学院大学)

高レベル放射性廃棄物の最終処分場である地層処分場は、将来的に国内での建設が不可欠でありながら、社会的な合意形成が難しい NIMBY の構造を持った忌避施設である。本セッションでは、地層処分場の候補地選定に向けた国民的議論の喚起を目指す社会科学的研究の成果を紹介し、NIMBY 問題における多様なステークホルダー間での合意形成の達成手段を提起する。

- A1-1 将来世代、原発立地住民の呈示…「当事者が決めるべき」が変化する文脈
野波寛(関西学院大学)
A1-2 世代内・間の焦点化が高レベル放射性廃棄物の貯蔵施設の受容に及ぼす影響
大友章司(関東学院大学)
A1-3 高レベル放射性廃棄物地層処分地選定を巡る保護価値と量的非感応性
大沼進(北海道大学)、横山実紀(北海道大学)、土田茜(北海道大学)
A1-4 NIMBY 施設の説明会の雰囲気住民の協議参加意欲に与える影響
青木俊明(東北大学)、奥山智天(東北大学)

B会場

- 企画セッション B1 : リスク対応の基本的見直しの必要と基礎的検討について
オーガナイザー(座長) : 関澤純(NPO 法人食品保健科学情報交流協議会)

わが国で様々な場面でリスクコミュニケーションの重要性が語られ、多彩な実践がなされてきた。しかしそれらは専ら専門家による一方的な科学説得であり、その質的情報、有用性、ヘルスリテラシーとの関連などの基礎的な検討がなされていない場合が多い。さらに言うならば、背景である人々の価値観、自然観の違いへの理解の不足があり、リスク概念そのものに含まれる矛盾に気づいていない点が指摘される。新型コロナ蔓延が学生生活に与えた影響をアンケート調査した結果について紹介する。原発事故汚染水処理と海洋放流計画では、地元民は「風評被害」への懸念から反対していると、もっぱら科学的知識不足で処理されている。膨大な予算と中間貯蔵施設建設を銘打った土地の強制買収でも、基本的に緊急の汚染対策が不十分なままの国や東電のパフォーマンスによる汚染現場処理思考が「風評被害」の大元であり、科学的に不適切かつ被災住民の基本的人権を踏みにじる汚染対策を根本から緊急に見直すことが求められる。

- B1-1 科学的リスク評価の限界と新たな可能性
伊藤浩志（独立研究者）
- B1-2 『米国 FDA に見る「健康に関するリスク・ベネフィットコミュニケーション戦略からガイド
ランス』のアプローチとその課題
山本美智子（熊本大学）
- B1-3 COVID-19 が学生生活に与えた影響についてのアンケート調査
広田鉄磨（関西大学）、関澤純（食品保健科学情報交流協議会）
- B1-4 風評被害という言葉の罪と罰について
関澤純（食品保健科学情報交流協議会）

C 会場

研究報告セッション C1 : 自然災害・Natech
座長 : 梶原秀夫(産業技術総合研究所)

- C1-1 化学物質流出シナリオに基づく石油コンビナート周辺地域の防災減災戦略ガイドライン
中山穰（横浜国立大学）、野口和彦（横浜国立大学）、澁谷忠弘（横浜国立大学）、三宅淳巳
（横浜国立大学）
- C1-2 災害・事故における化学物質の拡散予測と評価に関する現状と課題
小野恭子（産業技術総合研究所）、吉田愛（産業技術総合研究所）、恒見清孝（産業技術総合
研究所）
- C1-3 複合災害シナリオ下での化学物質流出事故のリスク評価モデルの検証
伊藤理彩（大阪大学）、岡崎祐樹（大阪大学）、北本靖子（大阪大学）、中久保豊彦（お茶の水
女子大学）、東海明宏（大阪大学）
- C1-4 南海トラフ地震に起因する石油コンビナート災害によるヒト健康影響の評価
田中航（大阪大学）、伊藤理彩（大阪大学）、Dos Muchangos Leticia（大阪大学）、東海明宏
（大阪大学）

11月20日(土) 10:50~12:20 (セッション C2 のみ 12:30 まで)

A 会場

企画セッション A2 : 地層処分に係るリスクコミュニケーションの諸問題 —リスクコミュニケーション事例タスクグループ企画セッション—

オーガナイザー(座長) : 桑垣玲子(電力中央研究所)、竹田宜人(北海道大学)

昨今、住民説明会や地域対話といった形で行政の施策に関連して議論の場を設けることが一般的となり、実践としてのリスクコミュニケーションの事例が増えてきている。その一方で、なぜ対話が必要なのか、関与する人々の役割や機能は何か、集められた意見はどのように施策に反映されるのか、といったコミュニケーションの目的や制度的な約束を、主催者側が具体的に整え、住民に説明できていない取組みも多いのではないだろうか。リスクコミュニケーションの実践における課題をテーマに活動している本タスクグループでは、このような社会の動きをどのように評価していくのがよいか、研究の立場から、様々な事例を題材に考え、社会が求めるものや疑問に答えていく機会を作りたいと考えている。

今回は、リスク学会論文誌でも NIMBY 施設立地の受容性の研究対象とされることが多い高レベル放射性廃棄物処分を題材とし、2020年10月に文献調査を受け入れた北海道の寿都町、神恵内村でスタートした2つの対話の場の実践を念頭に、これまでの研究知見でもっと役立ててほしいこと、研究の立場から提言すべき課題などについて、当該分野に研究知見を持つ講演者とともに議論する。

司会：土田昭司（関西大学）

A2-1 高レベル放射性廃棄物の地層処分にに関する地域での「対話」はなぜ困難なのか

寿楽浩太（東京電機大学）

A2-2 寿都町・神恵内村での文献調査に伴う「対話の場」を巡る諸相：住民参加の手続き的公正の観点からの考察

大沼進（北海道大学）、相馬ゆめ（北海道大学）、中山幸太（北海道大学）

A2-3 NPO が NIMBY 問題に関わるということ

土屋智子（複合リスク学際研究・協働ネットワーク）

総括：コメントを受けて実践の場から

竹田宜人（北海道大学）

B 会場

企画セッション B2 : 市民の社会参加へのコロナ禍の影響

オーガナイザー(座長) : 前田恭伸(静岡大学)

新型コロナウイルスのまん延は、様々な社会活動に影響を与えた。そのひとつがボランティアや NPO/NGO など、市民による社会的活動である。ここではおもに環境問題への取り組みを中心に、NPO・NGO・市民団体へのコロナ禍の影響、市民のボランティア参加への影響について報告する。

- B2-1 環境団体の活動へのコロナ禍の影響ー全国の団体への調査からー
前田恭伸（静岡大学）、森保文（国立環境研究所）、浅野敏久（広島大学）
- B2-2 環境団体の活動へのコロナ禍の影響ー広島県内の環境市民団体の事例からー
浅野敏久（広島大学）
- B2-3 川崎市における新型コロナウイルス感染防止に係る団体活動等への影響調査
犬塚裕雅（かわさき市民活動センター）、福森義之（かわさき市民活動センター）
- B2-4 ボランティア活動参加に与える新型コロナウイルス禍の影響
森保文（国立環境研究所）、浅野敏久（広島大学）、前田恭伸（静岡大学）

C 会場

研究報告セッション C2 : リスク管理

座長 : 永井孝志(農研機構・農業環境研究部門)

- C2-1 経済発展はパンデミックによる人命リスクを軽減するか
永松伸吾（関西大学）
- C2-2 事前津波対策を目的とした地方自治体の庁舎移転の現状と課題
村山武彦（東京工業大学）、長谷川陽介（三菱総合研究所）、錦澤滋雄（東京工業大学）、
長岡篤（東京工業大学、麗澤大学）
- C2-3 ナノテクノロジーとバイオテクノロジーの法的予防措置に関するアプローチ構造の比較検討
(EU・アメリカ・日本のリスク政策動向の観点から)
中山敬太（早稲田大学）
- C2-4 費用効果分析を用いたノニルフェノールのリスク評価
西元崇人（大阪大学）、伊藤理彩（大阪大学）、東海明宏（大阪大学）
- C2-5 Spatio-Temporal distribution of Tuberculosis and potential risk factors in 12 cities of Khuzestan, Iran
Zeinab Bahrami (Kyoto University), Morteza Abdullatif KHAFIAIE (Ahvaz Jundishapur University of
Medical Sciences), Kayo UEDA (Kyoto University), Hirohisa TAKANO (Kyoto University), Akiko
HONDA (Kyoto University)

11月20日(土) 13:20~14:50

A会場

ハイブリッドセッションP : ショートスピーチ、ポスター発表

司会進行 : 村上道夫(大阪大学)

- P-1 農業のリスクマネジメント：農作物の価格変動リスクの定量的解析
永井孝志（農研機構・農業環境研究部門）
- P-2 健康な食事（通称スマートミール）の基準からみる市販弁当の栄養健康リスク
小河陸也（愛知大学）、山口治子（愛知大学）
- P-3 持続可能なフードシステム構築に向けた日本におけるフードサプライチェーンの環境影響評価
笹部保乃佳（大阪大学）、Dos Muchangos Leticia（大阪大学）、伊藤理彩（大阪大学）、
東海明宏（大阪大学）
- P-4 循環・廃棄過程におけるリチウムイオン電池のリスク評価に向けた火災事事故事例解析
寺園淳（国立環境研究所）、秋山浩之（みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社）、
小林元（みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社）、中山穰（横浜国立大学）、小口正弘
（国立環境研究所）
- P-5 2050年ネットゼロに向けた日本の風力発電大規模導入での材料需要予測と発生廃棄物の推計
野垣将太（大阪大学）、伊藤理彩（大阪大学）、Dos Muchangos Leticia（大阪大学）、
今西正義（大阪大学）、東海明宏（大阪大学）
- P-6 有害性を考慮した災害廃棄物広域連携処理によるリスク評価
沈暘（大阪大学）、東海明宏（大阪大学）、伊藤理彩（大阪大学）、Dos Muchangos Leticia
（大阪大学）
- P-7 組織の安全文化の自己評価方法の検討
高城美穂（原子力安全システム研究所）、余村朋樹（大原記念労働科学研究所）、
前田典幸（大原記念労働科学研究所）、井上枝一郎（大原記念労働科学研究所）
- P-8 原子力災害の防護方策の意思決定に関する検討 TG の活動報告
日本リスク学会原子力災害の防護方策の意思決定に関する検討 TG
- P-9 三相因子分析による自然災害に対するリスク認知の分析
満下健太（静岡大学）、村越真（静岡大学）
- P-10 新型コロナウイルスの感染対策を考慮した感染リスクの試算
藤長愛一郎（大阪産業大学）、村山留美子（神戸大学）、岸川洋紀（武庫川女子大学）
- P-11 新型コロナウイルスに関する情報行動の国際比較
石橋真帆（東京大学）、田中幹人（早稲田大学）、関谷直也（東京大学）
- P-12 新型コロナウイルスに対する市民のメンタルモデルの特性 –twitter データの分析を通じて–
古川知香（大阪大学）、東海明宏（大阪大学）、伊藤理彩（大阪大学）、Leticia Dos Muchangos
（大阪大学）

11月20日(土) 15:00~17:15

シンポジウム会場

公開シンポジウム : 災害・事故に起因する化学物質放出に伴う環境リスクの評価・管理手法の体系的構築に関する研究～新興リスクへの化学物質リスク評価・管理の進化的対応に向けて～

司会進行 : 東海明宏(大阪大学)

災害・事故に起因する化学物質の流出などに伴うリスク事象は、実は過去から何度も繰り返されてきたものです。古くはインド・ボパール^①の爆発事故はよく知られていますが、その後にも中国・天津での爆発事故など多くの事例があります。一方、近年は自然災害に伴って化学物質の流出が起きた事例も経験され、災害・事故に伴う化学物質リスクへの対処が必要とされています。これに対し、防災部局や消防部局などが従来から対応されているものの、多種多様な化学物質が一般環境に放出された場合の対処は、科学的な手法や知見という点でも、また、環境行政としての対応という点でもまだ十分ではありません。そこで、本公開シンポジウムでは、災害・事故に伴う化学物質リスクへの対処のための最新の科学的知見を、環境研究総合推進費・戦略的研究開発課題 S-17「災害・事故に起因する化学物質リスクの評価・管理手法の体系的構築に関する研究」の研究代表、テーマリーダーから解説頂く場を企画致しました。学際的な議論を行うための時間も設ける予定です。

趣旨説明

東海明宏(大阪大学)

災害・事故での化学物質リスクとその対処ー新たな課題と今後の取り組みー(仮)

鈴木規之(国立環境研究所)(S-17 研究代表)(研究テーマ1、テーマリーダー)

水質事故等の異常検知と影響予測手法の開発(仮)

浅見真理(国立保健医療科学院)(研究テーマ2、テーマリーダー)

速やかかつ網羅的な化学物質把握のための分析手法の開発(仮)

井ノ上哲志(株式会社堀場製作所)(研究テーマ3、テーマリーダー)

PRTR データを活用した化学物質存在量の推計(仮)

中村智(大阪府立環境農林水産総合研究所)(研究テーマ4、テーマリーダー)

質疑応答・総合討論

東海明宏、鈴木規之、浅見真理、井ノ上哲志、中村智

11月20日(土) 17:15~18:00

オンライン意見交換会(シンポジウム講演者との意見交換)

シンポジウム後、ご自由に意見交換できる場を設けます。

11月21日(日) 9:10~10:40

A会場

企画セッション A3 : 次期リスク学事典について考える
オーガナイザー(座長) : 村上道夫(大阪大学)、藤井健吉(花王株式会社安全性科学研究所)

2019年にリスク学事典が発刊されたことを受け、これまで、年次大会において、2019年事典の内容紹介やレビューに加えて、一般向けやウェブコンテンツなども含めた次期事典に関する議論がされてきた。事典の準備に相当の期間を要することを考えれば、早い段階から次期事典のあり方を検討する意義がある。本企画セッションでは、構造トピックモデリングを用いたリスク分野の俯瞰、ソーシャルリスニングを用いたリスク認識の分析とリスク学事典の関係、他のリスク関連の事典との比較、2019年事典と今後のあり方についての話題提供とともに、次期事典について参加者間で議論する。本セッションは次期リスク学事典に関するタスクグループによる企画である。

- A3-1 構造トピックモデリングを用いたリスク分野の俯瞰とリスク学事典の関係
村上道夫(福島県立医科大学、大阪大学)、竹林由武(福島県立医科大学)
- A3-2 ソーシャルリスニングを用いた世間のリスク認識の分析とリスク学事典の関係
永井孝志(農業・食品産業技術総合研究機構)
- A3-3 類書との比較を通じたリスク学事典の位置付け
清水右郷(国立循環器病研究センター)
- A3-4 学際的リスク分野を編纂したリスク学事典2019の課題と今後のあり方
藤井健吉(花王株式会社安全性科学研究所)

B会場

企画セッション B3 : 経営・経済リスクのレジリエンス
オーガナイザー(座長) : 前田祐治(関西学院大学)、上野雄史(静岡県立大学)

経済・経営がいかに移り変わるリスクに対して「耐性」を維持することができるか?について議論します。

- B3-1 Success Factors in Equity Crowdfunding: An Evidence in Japan
Adel GUERRAM (University of Algiers), Yuji Maeda (Kwansei Gakuin University)
- B3-2 Japanese City Banks vs. Regional Banks: A Liquidity Creation Perspective
Arafate Joao DO ROSARIO (Kwansei Gakuin University), Yuji Maeda (Kwansei Gakuin University)
- B3-3 Analyzing the Impact and Risk of Natural Resources on Economic Growth: Analyzing the Resource Curse in Sub-Saharan Africa
Ekote Nelson Nnoko (Kwansei Gakuin University), Yuji Maeda (Kwansei Gakuin University)
- B3-4 リスク情報の開示は企業の業績を高めるか?
上野雄史(静岡県立大学)、柳瀬典由(慶應義塾大学)

C 会場

研究報告セッション C3 : リスクコミュニケーション

座長 : 竹田宜人(北海道大学)

- C3-1 福島第一原子力発電所事故から 10 年、人々は放射線リスクとどう向き合ってきたか
～メンタルモデル・インタビュー調査から考える
桑垣玲子（電力中央研究所）、小杉素子（静岡大学）、土屋智子（複合リスク学際研究・協働ネットワーク）
- C3-2 住民説明会や対話の場の社会的機能について
竹田宜人（北海道大学）
- C3-3 集団極化は悪者なのか：低濃度除去土壌県外処理問題を題材とした集団討議実験
大沼進（北海道大学）、相馬ゆめ（北海道大学）、横山実紀（東洋大学）、中澤高師（東洋大学）、辰巳智行（豊橋創造大学短期大学部）
- C3-4 公共的討議の「議論の質」の評価指標開発：低濃度除去土壌県外処理問題を題材とした集団討議実験
相馬ゆめ（北海道大学）、横山実紀（北海道大学）、中澤高師（東洋大学）、辰巳智行（豊橋創造大学短期大学部）、大沼進（北海道大学）

11月21日(日) 10:50~12:20

A会場

- 企画セッション A4 : マスギャザリングイベントにおけるリスク評価・管理:検査とワクチンを事例として
- オーガナイザー(座長) : 保高徹生(産業技術総合研究所)、村上道夫(大阪大学)

新型コロナウイルス感染が続く中、観客や選手の安全を守った状態でイベントを開催することに注目が集まっている。本セッションでは、選手への頻回抗原検査やPCR検査に関して、Jリーグでの実施例および感染リスク低減効果のモデル評価事例、ならびに、ワクチン接種やワクチンパスポートに関するインセンティブや倫理的視点からの話題提供を頂き、議論を深める。

A4-1 JリーグでのPCR検査やワクチン接種について

仲村健太郎 (Jリーグ)

A4-2 選手に対するPCRや抗原検査システムによる感染リスク制御の評価

加茂将史 (産業技術総合研究所) 、村上道夫 (大阪大学)、内藤航 (産業技術総合研究所)、竹下潤一 (産業技術総合研究所)、保高徹生 (産業技術総合研究所)、井元清哉 (東京大学)

A4-3 新型コロナ感染症のワクチン接種率向上策

大竹文雄 (大阪大学)

A4-4 新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種および接種証明の倫理的・社会的側面

井出和希 (大阪大学)

B会場

- 企画セッション B4 : 食品中の杞憂のリスクを議論する
- オーガナイザー(座長) : 山崎毅(NPO 法人食の安全と安心を科学する会)

食品中のハザードでも現在国内で杞憂と思われる4つのリスク(食品添加物、残留農薬、放射性物質汚染、ゲノム編集食品)について、そのリスクコミュニケーションの在り方を議論します。

B4-1 トリチウム水問題を「サウンドバイト」で語る実験

小島正美 (食生活ジャーナリストの会)

B4-2 ゲノム編集食品をめぐるリスクコミュニケーションへの心理モデルの活用

佐々義子 (くらしとバイオプラザ21)、田中豊 (大阪学院大学)

B4-3 残留農薬のスマート・リスクコミュニケーション

大瀧直子 (食の安全と安心を科学する会)、山口治子 (愛知大学)、山崎毅 (食の安全と安心を科学する会)

B4-4 食品添加物に関するリスクコミュニケーションの社会実装例

山崎毅 (食の安全と安心を科学する会)

C 会場

研究報告セッション C4 : リスク情報

座長 : 小野恭子(産業技術総合研究所)

C4-1 Twitter における放射線リスク情報の拡散シミュレーション

鳥居寛之 (東京大学)、佐野幸恵 (筑波大学)、尾上洋介 (日本大学)、宇野賀津子 (レイ・パストゥール医学研究センター)

C4-2 福島原発事故直後の放射線影響を巡るソーシャルメディア上の反応の質的分析

菅原裕輝 (慶應義塾大学)、鳥居寛之 (東京大学)、宇野賀津子 (レイ・パストゥール医学研究センター)

C4-3 人工知能によるリスク情報提供に対する信頼

小野聡 (千葉商科大学)、熊澤輝一 (総合地球環境学研究所)、寺田匡宏 (総合地球環境学研究所)、松井孝典 (大阪大学)

C4-4 ビックデータを用いた状況リスク比および R-Map 分析に基づく介入デザイン支援

尾崎正明 (東京工業大学)、内山瑛美子 (東京工業大学)、西田佳史 (東京工業大学)

11月21日(日) 12:50～14:20

A会場

企画セッション A5 : Covid-19ならびにそのワクチンへの社会的対応
オーガナイザー(座長) : 土田昭司(関西大学)

新型コロナウイルス感染症流行は、2021年9月時点で5波の感染拡大があり、社会的防御として、手指衛生、飛沫防止、対人接触制限の行動規制が強く要請されて社会生活が大きく変容すると共に、飲食業、運輸業、旅行業を中心に経済的に大きな損失を受け入れなければならなくなった。この企画セッションでは、日本において人々が新型コロナウイルス感染症流行とその医学的対抗措置であるワクチンをどのように認識して対応・受容してきたかを社会調査データにもとづいてふりかえる。新型コロナウイルスは変異株が次々に出現していることから、感染が終息することはなくインフルエンザのように常に対応を求められる疾病となる可能性がある。その場合、これまでの社会的対応を検討して今後の対応に生かすことは重要である。

- A5-1 新型コロナウイルス感染症流行にかかる経時的な社会調査
土田昭司(関西大学)
- A5-2 第1波以降の新型コロナウイルス感染症に対する人々の思いの変化
浦山郁(関西大学)、土田昭司(関西大学)、静間健人(関西大学)
- A5-3 コロナ禍において重視する生活領域と対策行動
静間健人(関西大学)、土田昭司(関西大学)、浦山郁(関西大学)
- A5-4 新型コロナウイルスワクチンに対する人々の認識の変化
土田昭司(関西大学)、静間健人(関西大学)、浦山郁(関西大学)

一般公開ウェビナー

企画セッション B5 : モバイル建築の社会的備蓄
オーガナイザー(座長) : 長坂俊成(立教大学)

国難級の大規模災害への備えと持続可能な社会への移行を踏まえた新たな居住福祉の在り方について考える。具体的にはモバイル建築を活用した官民協働による応急住宅の社会的備蓄と復興まちづくりの戦略と方法について討論する。

- B5-1 モバイル建築の社会的備蓄～国難級の災害と感染症に対するリスクガバナンス
長坂俊成(立教大学)
- B5-2 モバイル建築の社会的備蓄を支える情報システム
小島誠一郎(一般社団法人日本モバイル建築協会)
- B5-3 モバイル建築活用に関する南伊勢町の取組
小山将彦(南伊勢町役場)
- B5-4 産学官民協働の防災・減災対策～三重県・三重大学 みえ防災・減災センターの取組～
川口淳(三重大学)

C 会場

研究報告セッション C5 : リスク認知・経験

座長 : 井上知也(みずほリサーチ&テクノロジーズ)、小島直也(JANUS)

- C5-1 新型コロナ感染症と食品の放射能に対するリスク認知の比較 11 波パネル調査データによる検討
楠見孝(京都大学)、三浦麻子(大阪大学)、小倉加奈代(岩手県立大学)、西川一二(京都大学)
- C5-2 地域コミュニティの被災経験を活用した防災活動プロセスのデザイン
李泰榮(防災科学技術研究所)、大沼乃里子(国土防災技術株式会社)
- C5-3 震災によって生じた外傷後成長体験と新型コロナウイルスへの対応
川島萌(福島県立医科大学)、村上道夫(福島県立医科大学)、竹林由武(福島県立医科大学)、
小林智之(福島県立医科大学)、坪倉正治(福島県立医科大学)、保高徹生(産業技術総合
研究所)、田巻 倫明(福島県立医科大学)
- C5-4 人々はどんな食品を恐れるか: 食品リスク認知を構成する要因の検討
長谷和久(神戸学院大学)

11月21日(日) 14:30~16:00

A会場

研究報告セッション A6 : リスク解析
座長 : 米田稔(京都大学)、近本一彦(JANUS)

- A6-1 CO₂フリー水素製造に伴う固体炭素の道路舗装材利用における大気拡散解析
恒見清孝(産業技術総合研究所)、川本朱美(産業技術総合研究所)
- A6-2 非平常時におけるオゾン濃度の増加による健康リスク評価ーコロナ禍での交通量の減少を考慮してー
岡崎祐樹(大阪大学)、伊藤理彩(大阪大学)、東海明宏(大阪大学)
- A6-3 海洋生分解性プラスチック導入の可能性がある製品群の特性化:海洋プラスチックごみ低減効果推定モデリングに向けて
梶原秀夫(産業技術総合研究所)、石川百合子(産業技術総合研究所)、恒見清孝(産業技術総合研究所)、小野恭子(産業技術総合研究所)、蒲生昌志(産業技術総合研究所)
- A6-4 EPT種数を用いた水生生物生息ポテンシャルの評価:群馬県汚水処理計画を対象として
川幡翠(お茶の水女子大学)、中久保豊彦(お茶の水女子大学)、石川百合子(産業技術総合研究所)、岩崎雄一(産業技術総合研究所)

C会場

研究報告セッション C6 : COVID-19
座長 : 岸本充生(大阪大学)、藤井健吉(花王株式会社安全性科学研究所)

- C6-1 サッカースタジアムにおける観戦時の感染予防の調査とリスク評価
保高徹生(産業技術総合研究所)、仲村健太郎(Jリーグ)、内藤航(産業技術総合研究所)、大西正輝(産業技術総合研究所)、坂東宜昭(産業技術総合研究所)、篠原直秀(産業技術総合研究所)、藤田司(産業技術総合研究所)
- C6-2 COVID-19の予防行動の規定因
小杉素子(静岡大学)
- C6-3 大学生の職域接種における行動・意識調査
岸川洋紀(武庫川女子大学)
- C6-4 新型コロナウイルスの起源を巡る生命科学者の非倫理的行動の分析
掛谷英紀(筑波大学)

大会実行委員会企画イベント

11月20日(土) 12:40~13:10 A会場

ランチミーティング (1日目昼休憩)

進行：竹田宜人、小野恭子

- ・ 理事会からのメッセージ (村山武彦 学会長)
- ・ タスクグループ活動紹介

11月21日(日) 12:20~12:50 A会場

ランチミーティング (2日目昼休憩)

進行：竹田宜人、小野恭子

- ・ 理事会からのメッセージ (編集委員会、国際委員会)

11月21日(日) 16:10~17:30 A会場

表彰式・受賞講演

- ・ 開式挨拶
- ・ 各賞の表彰
 - 学会賞
 - 奨励賞
 - グッドプラクティス賞
- ・ 受賞講演
 - 学会賞
 - グッドプラクティス賞
- ・ 閉式挨拶

各賞の受賞者

【日本リスク学会 学会賞】

前田 恭伸 氏 (静岡大学 総合科学技術研究科 工学専攻)

【日本リスク学会 奨励賞】

竹林 由武 氏 (福島県立医科大学 医学部 健康リスクコミュニケーション学講座)

【日本リスク学会 グッドプラクティス賞】 (推薦書到着順)

Synodos / 福島レポート

代表 服部 美咲 氏 (福島レポート編集長)

「福島第一原発事故以降の科学的・社会的知見の発信 (福島レポート)」

MAss gathering Risk COnTrol and Communication (MARCO)

代表 井元 清哉 氏（東京大学 医科学研究所 ヒトゲノム解析センター）

「大規模集会（Mass Gathering Event）を対象とした解決志向リスク学の実践」

畝山 智香子 氏（国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部）

「食品安全に関する長年にわたる継続的な情報発信」

SAICM 推進にかかる産官学ステークホルダー

代表 北野 大 氏（秋草学園短期大学）

「SAICM（国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ）による化学物質の包括的リスク管理の社会実装」